

早稲田大学人間科学学術院人間科学会諸費用補助成果報告書(Web 公開用)

申請者(ふりがな)	佐々木敦(ささきあつし)
所属・資格(学生の場合は課程・学年を記載)	人間科学研究科 修士課程1年
発表年月または事業開催年月	2022 年 9 月
発表学会・大会または事業名・開催場所	2022 年度日本建築学会大会(北海道)
発表者(学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	佐々木 敦
発表題目(学会発表の場合のみ記載)	鉄道輸送障害時における路線バスを含む迂回行動判断分析と混雑度予測
発表の概要と成果(抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
【背景】 鉄道路線の輸送障害時には混雑緩和を行い列車のさらなる遅延や体調不良者発生を防ぐ必要がある。しかし先行研究では路線バスとのみ乗換可能な駅の旅客行動やそれに伴う混雑に関する研究が不十分であり精緻な旅客行動からの緩和策検討は不足している。 【目的・方法】 路線バスとのみ乗換可能な駅において鉄道路線が運転見合わせの場合を想定して旅客行動をアンケートで尋ねる。この調査では主に迂回ルート図の有無による旅客行動の変化を調査する。また旅客行動に伴う路線バスや駅構内での混雑度を予測する。そして両者の結果より旅客の混雑緩和に必要な施策を検討する。 【結果】 迂回ルート図を提示することで路線バスでの迂回者が約 26ポイント増加する一方、待機者は約 15 ポイント減少する。また、同一駅から発着するバス系統でも 150%以上の混雑率と 20%の混雑率の系統が混在する。また駅構内での待機箇所を駅構内のみから駅前広場まで拡大することにより密度を 0.995 人/㎡から 0.274 人/㎡まで減少できる。 【旅客の案内方法の検討・】 混雑率が低いバス系統への案内を強化して旅客を分散する必要がある。また、駅前広場の利用を呼びかけ駅構内の混雑緩和を行う必要がある。	